

里山から庭先まで 麻生にヤマユリを再生させましょう

ヤマユリ通信 植栽号

麻生区地域課題対応事業 麻生ヤマユリ植栽普及会 H23. 12. 28 発行 Vol. 3-3

◆もくじ◆

- ▶鉢植え植え替えシーズン：球根鉢・種まき鉢の植え替えのポイント…………1
- ▶ヤマユリ育成Q & A：ヤマユリ鉢植え管理一問一答…………2
- ▶連載：ヤマユリ今昔③：かつては、一大ユリ根輸出國であった！ 永留真雄…3
- ▶10月～12月植栽地便り！：ヤマユリ自生地再生活動、試行錯誤5年、これから…4



植え替え球根の下根

鉢植え植え替えシーズン

今秋は、恒例化してきた球根の鉢植え講習会(11月21日)とは別に、これまで講習会(球根と種)に参加して1年から3年経過した方を対象に、植え替え方法の情報交換会を開催(10月17日)しました。



▲②1年目の球根鉢は、上土の取り替えでよい。



▲①鉢植えの断面図



▲③ベンレート液に3,40分程度浸す。



▲④1～2時間程度陰干して植える。



▲⑥殺菌後、1時間程度、根が乾きすぎないように水洗い

①

ヤマユリの鉢植えは、継続して育成することが難しい植物の一つです。とりわけ、**球根鉢**での育成は、そのままだと年を追つて球根が小さくなったり、また上根が毎年枯れて腐り雑菌の繁殖、また連作障害などで消滅を早める原因にもなります。ヤマユリの**種まき鉢**(約50粒)は、3年も経過すると球根と根が鉢いっぱいになり、球根が発育不全を起こしますので、ゆつたりとした鉢に移植します。

【植え替えのポイント】

◆1年目の球根鉢

鉢の上土のみの取り替えでOK！ 上土は、小粒赤玉土と腐葉土を2対1の割合の混合土を使います(①図)。11月下旬頃、茎が枯れてから、土を少しずつ掻き出し、

上根をハサミで切り取りながら取り出した球根を殺菌してから使うことがポイントです。①まず、球根を殺菌するためにベンレート水和剤500倍液(水1升に2グラム)を作つておきます。②球根と根を傷つけないよう、鉢から取り出して土を落とし、③そのまま水洗いをします。鉢も洗つて乾かして使おう。④続いて、球根と上根の部分の茎を切り離します。⑤球根を作つておいたベンレート液に3、40分程度浸け置きます。⑥球根を取り出し、1・2時間陰干します。こ

れで植え替え球根の準備完了。⑦植え付け後は、殺菌に使つたベンレート液を冠水します。球根の植え替えと同じように殺菌をしてから使うことがポイントです。①絡んだ根を傷めないように土を落とし、②水洗いします。③茎と小球根を切り離し、ベンレート500倍液に3、40分浸します。④その後、1時間程度陰干してから植え付けます。小球根の大きさは2ミリ×1センチといろいろ。大きさ別に鉢分けし、深さは5、6センチ程度、間隔は6、7センチ程度に植え付け。⑥用土は、球根用と同じものを使用。植え付け小球根の周囲は、赤玉土のみとなるように土入れを注意。⑦その後、球根の植え付けと同じように使つたベンレート液を冠水します。

◆2～3年目の球根鉢

この時節は、茎がまだ堅い茎を切り取ります。

上根をハサミで切り取りながら使うことがコツです。この時節は、茎がまだ堅い茎を切り取ります。

◆2～3年目の種まき鉢

この時節は、茎がまだ堅い茎を切り取ります。

ヤマユリ鉢植え替え管理 一問一答

鉢植えやマガジンの「植え替え情報交換会」で交わされた主な内容を、Q&A形式でまとめました。前号広報紙「開花号」の記事と合わせておご覧ください。

◆Q6：日照について、直射日光を当てるのはよいのか？

◆A：鉢植えも半日陰、夏でも午前中は直射日光が当たるところが好ましい。その際、鉢の部分は直射日光が当たらないように手当するとよい。

◆Q9：球根が、年々小さくなるが？

◆A：鉢植えの場合、球根の根が伸び窮屈になり、養分を取ることができなくなれば、植え替えるたびに鉢を一回り大きくする。一つの鉢に、何球も植えることは好ましくない。

◆Q13：庭に地植えをして、1年目には花が咲いたが、2年目には消えてしまった。原因は？

◆Q1：植え替え時の鉢は、新品でなくても大丈夫か？
◆A：きれいに洗って天日干してから使う。洗わずに使うとウイルスが残っている可能性がある。

◆Q2：球根鉢は、2年目で植え替えしないといけないのか？
◆A：狭い鉢の中で、毎年冬には、上根部分も枯れて腐敗するなどにより、連作障害などを起こしやすい。植え替えた方がよい。

◆Q4：種まき後1年目、2年目と1枚葉が出たが、3年目に入つても1枚葉が多い。このような状態でも植え替えは可能か？
◆A：1枚葉でも3年経過した小球根は、いくつかの鉢に分けて植え替えた方が、発育が早い。

◆Q7：水やりの間隔は？
◆A：表土が乾いたら冠水するようになつ。ぶり与える。少量ずつやると土が目詰まりして根腐れの原因になる。鉢に、割り箸などを挿しておき、時折、抜いて湿り具合を確認。

◆Q10：地植えする前に殺菌は必要なのか？

◆A：可能な限り殺菌・殺虫処理を行つた方がよい。

◆Q13：庭に地植えをして、1年目には花が咲いたが、2年目には消えてしまった。原因は？



▲病気にかかり根がなくなった球根

◆Q3：種まきの時には糊殻薰炭を使用したが、植え替え時は使用しないのか？
◆A：糊殻薫炭は、浅く植えた発根種の土の乾燥を防ぐとともに、病気を防ぐためのもの。

3年経過した種は、小球根に生育している。それを5、6cmの深さに植え替えるため、乾燥を防ぐことができる。



▲3年経過した種まき鉢

◆Q5：置き場所？
◆A：鉢植えの鉢は、簡単に移動できるので半日陰に心がける。

鉢は、地面に直に置かなうこと。敷石の上や、フランクワースタンドの上に置く。フランクワースタンドを庭木の間に置くのもよい(左図)。



◆Q8：開花後、そのまま育てたら種が実つたが？
◆A：種の採取が目的でなく、翌年も咲かせるには、咲き終わったら花支の部分を摘み取るといい。種を育てると、球根の栄養が種に取られてしまい小さくなり、咲かなくなる。

◆Q11：ヤマユリの寿命は、どのくらいか？
◆A：鉢植えでは、咲き始めて3、4年、地植えでは、普通7、8年と言われているが、長いものは20数年生き続けるものもある。



▲芽吹き時は、寒冷紗をかけておく。

◆Q14：薬剤の使い分け？
◆A：病害虫によつて用途が異なるので注意。殺虫剤(アブランシ、ヨトウ虫など)には、オルトラン液剤・粒剤、スミチオン乳剤など。殺菌剤(各種ウイルス)には、ペントレート水和剤・オートサインド水和剤など。



◆Q12：花を咲かせ、大きく育てたいが、養分をたくさん与えればよいのか？
◆A：肥料を与えると生育は早いが、球根が病弱に育ち短命となりやすい。

◆Q15：共生植物とは？
◆A：チガヤ、フウチソウ、竹など、根域が比較的浅い植物がよい。株元の直射光の遮り、余分な水分を吸収する効用。



かつては、 一大ユリ根輸出国であった！

数日本のユリが貿易商品として始めて輸出されたのは慶應3年(1867年)、ヤマユリ命名から5年後のことです。当初は横浜に居留していた外国人が取り扱っていました。球根の内訳はヤマユリが主で、カノコユリとテンガイユリ(天蓋百合・八重咲きオニユリ)がこれに次いでいました。明治時代には関東近辺の農家からヤマユリを1球3銭で買い付けて、海外(主にイギリスとアメリカ)では100倍以上の3~5円相当で販売していたのです。それでも大変な売れ行きであったようです。尤も、高値の理由には長い航海の間に腐敗する球根が多かったことがあります。後に続く貿易商は輸送方法の改良に非常な努力を重ねることになりました。

その後、明治20年頃から大正初期までに、主要な輸出球根はイースターに需要のあるヤマユリからテッポウユリや、より耐病性の高いカノコユリに推移していきます。この頃には、山採り球根を畑で1年栽培して大きくしたのも出荷するようになります。また、この時代は輸出の扱い手が外国人から日本人に推移した時期もあり、明治23年(1890年)の「横濱植木商会」(現・横濱植木株式会社)設立に続いて、多くの日本人による貿易商社が誕生しています。写真のような外団向けのカタログも出版されています。

数日本のユリが貿易商品として始めて輸出されたのは慶應3年(1867年)、ヤマユリ命名から5年後のことです。当初は横浜に居留していた外国人が取り扱っていました。球根の内訳はヤマユリが主で、カノコユリとテンガイユリ(天蓋百合・八重咲きオニユリ)がこれに次いでいました。明治時代には関東近辺の農家からヤマユリを1球3銭で買い付けて、海外(主にイギリスとアメリカ)では100倍以上の3~5円相当で販売していたのです。それでも大変な売れ行きであったようです。尤も、高値の理由には長い航海の間に腐敗する球根が多かったことがあります。後に続く貿易商は輸送方法の改良に非常な努力を重ねることになりました。

なお、昭和3年(1923)に横浜税関ではヤマユリ1,503,321球を輸出検査しています。仮に全て山採り球根だつたとして、武藏丘陵森林公園の自生密度(開花3,000株/304ha)に換算すると、152,336haの自生地が存在していました。これは川崎市の面積(144.35km²)10倍以上に相当します。毎年これだけ採つても1960年代までは各地で普通に見られる植

さるに、昭和に入るとユリ根の総輸出球根数は2,000万球台以上を推移し、農産品分野では生糸に次ぐ「日本主要外国貿易品」の一つにあげられています。昭和7年(1932年)には「日本百合根輸出組合」が設立され、質・量ともに輸出の黄金時代を迎えます。

さらに、昭和に入るとユリ根の総輸出球根数は2,000万球台以上を推移し、農産品分野では生糸に次ぐ「日本主要外国貿易品」の一つにあげられています。昭和7年(1932年)には「日本百合根輸出組合」が設立され、質・量ともに輸出の黄金時代を迎えることになります。このように一大ユリ根輸出国であつたことが推測されます。

日本も、太平洋戦争の激化により栽培・輸出を中断せざるを得ませんでした。戦後輸出が再開されましたが、皮肉にも戦時中日本からの輸入が止まつたオランダ等がオリエンタル・ハイブリッドに代表される優れた園芸品種を開発し、こちらが主流となりました。日本は育種の分野でも戦前から高い技術を持っていましたが、現在は世界でも有数のユリ消費・輸入大国となっています。

しかしながら、クローネン由来のハイブリッドは、世代を交代してもクローネン全體としてみたときの寿命がいつかは尽きたため、絶えず母種となる原種ユリの確保が必要となります。この意味でも、原種のユリが安定して自生する環境を保全していくことは極めて重要です。このような環境を次世代に残していくことは現代に生きる我々の責務であり、何よりも貴重なユリをまだ身近で観察できることが、貴重さが世間に広く認識されることは大変幸せなことかとも思いました。



▲外国向けのユリ販売カタログに描かれたヤマユリ。

左から通常のヤマユリ・紅筋・白黄。

「百合花選」大正11(1922)年 発行: 横濱植木株式会社
(神奈川県立大船フラワーセンター所蔵品)

“あるさと自慢” 10~12月植栽地便り！

ヤマユリ自生地再生活動 試行錯誤5年、これから…

ようやく区民のみなさんに観賞いただけるヤマユリの植栽地へと整備されつつあります。

今晩秋、6か所の植栽地に追加球根の植え付けを行つたために、秋口から下草刈・ツル草取りの作業を進めてきました。

11月の中旬から順次、球根10~30球の植え付

けを行い、12月初旬、王禅寺地区の3カ所の植え付け作業を最後に完了しました。それぞれの植栽地では、朔（種）の採取と育苗の種まきも行いました。種からの再生にも取り組んでいます。

以下、それぞれの植栽地の現状と課題を整理してみました。

●**王禅寺地区** 来春からタイムリーな殺虫作業を行う予定。

招きらば」と思える植栽地の輪郭が定まりました。

しかし、他の植栽地には見られない害虫被害に悩んでいます。この数年10株前後の茎が「シンクイムシ」に食い倒されたことです。それも開花直前の株ばかりなので、何とも悔しい。

来春からタイムリーな殺虫作業を行う予定。

当初、2年間は、場所の選定が悪く失敗続き、3年目から順次、この録地(1.8タール)の西端東向き斜面、およそ幅30メートル



「岡上梨子ノ木緑地」では、「かわさき自然と共生の会」のみなさんと協力して活動を進めています。

A photograph showing four people in a field, possibly a mix of grass and brush. They are positioned around several wooden A-frame traps set in the ground. One person in the center-right is bending over, working on one of the traps. Another person is visible in the background near some trees. The sky is clear and blue.

●万福寺地区 植栽地「おやしろ公園」では、「新百合山手公園管理運営協議会」と協力して進めています。

度で植栽域は確保できています。一方「すぎのき緑地公園」は、昨年からの杉の木の枝おろしが功を奏して、害虫被害もほとんどなく、区民のみなさんが、散策できる植栽地となつてきました。

くいかず、何とか3年前
から「まつのき緑地公園」
の斜面と「すぎの木緑地公
園」「化粧面谷公園」の3か
所に定りました。



A photograph showing three individuals in blue work clothes and hats engaged in tree planting. They are using long-handled tools to dig holes in a grassy, slightly hilly area. Several small trees with thin trunks and green leaves are already planted and supported by stakes. A simple wooden fence made of vertical posts and wire runs across the left side of the frame.

りで移設しました。昨年度は、成球根を5球、木子を10球ばかり植え付けました。今年度は春先から作業道・階段の設置作業を進め、そしてこの秋、旧植栽地から30球を移植。チガヤの生える東向き斜面ですが、樹木が全くないため、強い夏の日差しに耐えてくれるかが課題。生育の様子をみることにしました。

●細山地区
長年、ヤマユリを植栽してきました授産学園緑地は、学園の意向により学園内の東向き斜面に2年がかかる

良好な場所です。
新百合駅からも近く、
こここそ区民のみなさんが気軽に散策・観賞できる「ヤマユリの再生地」となつきました。

ただ、散策路が未整備ため当公園管理事務局や麻生区の道路公園センターと相談していますが区民に紹介することへの理解が得られないため、今後、どう進めていくか思案中です。

会員
募集中

地域のボランティアのみなさんと一緒にヤマユリに親しみながら緑地で汗を流しませんか。

年会費：1,200 円

定例会議：原則、毎月第2木曜日 午後2時～4時)

定期会議：毎月第一
会場：交流館 やまゆり

植栽活動：指定の各緑地（月に1回～2回）

★問合せ・連絡先：当会会長（事務局）貞本 効

TEI : 090-7175-4995

E-mail : tsutomu.sadamoto@nifty.com

行事予定

1月～3月の主な予定

- ◆1月～3月 植栽地の整地作業（4地域6か所）
 - ◆1月～3月 定例会会議
(毎月第二木曜日午後午後2時～4時)
 - ◆3月 来期事業計画の修正、年次総会の準備、
本年度収支報告の作成

★この広報紙は、区役所のHPからも入手できます。
[くらしのガイド](#) > [魅力ある区づくり](#) > [自然・環境系の事業](#) > [ヤマユリ植栽普及促進事業](#) と順にクリック。